

医療改革の流れについて

理事長 石井 暎禧

昨今、新聞等で医療改革についての論議が盛んになってきていますが、その多くは、小泉内閣・経済財政諮問会議での議論を背景にした「株式会社の参入」や「特区」といった医療への無理解に基づく非現実的な議論であり素人談議であると断じざるを得ません。

私たちが医療に携わる者として注目しておかねばならない変化は「医療保険制度」および「医療供給体制」の2点のみと言えます。

高齢者医療制度導入の動き

ただし医療保険制度については、あるべき医療体制との関わりは全くと言ってよいほど考えられておらず、高齢者への負担を増加させるための別立て制度の導入だけが課題となっています。

現在、世界的にみて医療保険を高齢者のみ別立て運用する制度は、米国のメディケアだけです。医療の質、経費の抑制という両側面から見てうまく行っていない。今回の日本での動きも、医療費抑制の動機によるものに過ぎませんので、医療の質は

変化せず、高齢者の経済負担のみを増加させる結果をもたらす可能性が大きいでしょう。

DPC導入で予想される事態

これに対して医療供給体制は、病院における機能分化を中心に激しい変化が予想されます。昨年、特定機能病院に、急性期医療における1日あたり定額制(DPC)が導入されましたが、これは米国のDRG/PPSと出来高払い制報酬体系の折衷方式であり、紆余曲折はあっても、この方向が急性期入院の支払い方式として拡大して行くと予想されます。その結果、医療保険による入院適応は、グローバルスタンダードの急性期医療、つまり平均在院日数1～2週間程度の劇症期対応に限定され、かつて社会的入院を許容してきたような曖昧な病床は急速に淘汰されざるをえません。したがって、劇症期に対応しうる救急機能、専門機能を備えた病院のみが生き延びられるという傾向が今後ますます強まると予想されます。

また、急性期病院におけるDPC導入と軌を一にして、施設介護や入院における

本紙タイトル『海燕』は、M・ゴーリキーの散文詩《海燕の歌》(1901)に由来しています。
その大意は以下のとおりであり、石心会のイノベーションマインドの象徴として採用しました。

……暗鬱な雲がたれこめ、雷鳴が轟く空と海。戸惑い騒ぐばかりの鷗らの群を尻目に、
海燕は激しく飛び交い、暗雲と雷鳴を切り裂いて一直線に飛翔する。

(編集部によるダイジェスト)

「ホテルコスト」自己負担の傾向が強まると思われます。

実際、現在進められている介護保険見直しの中心は「部屋代の自己負担」であり、この動きが特別養護老人ホームに始まり、老人保健施設や療養病床へ波及することは必至でしょう。

医療保険においても、たとえば食費の自己負担化が強化されており、部屋代もベッド差額の徴収(に関する規制緩和)から部屋代部分の保険はずしに進むと予想されます。

サバイバルの条件

医療改革に伴う以上のような環境変化を受け、石心会グループの旗艦・川崎幸病院と狭山病院は如何にサバイバルするか。最後に、両者が地域医療の最前線に立つ急性期病院として生き残るための条件について整理します。

【解説】

■DRG/PPS：入院診療報酬の診断群別定額支払制度。この制度が全面的に適用されている米国をモデルに、3年前よりわが国の国立病院で試行されてきた。

■DPC：DRG/PPSと従来の出来高払いを折衷し、1日当たり定額制と出来高払い(手術料)の組み合わせで支払う方式。

■メディケア：米国の公的な高齢者医療保険制度で、上限を設定した定額制で支払われている。

■ホテルコスト：入院に際して、医療や看護に直接関わらない部分の費用。例えば部屋代、食事代、寝具料等。

★トピックス①

【川崎幸病院】

- 5月1日 内科沢部長、日本糖尿病学会、学術評議員に就任。
- 5月8日 平成15年度資格取得者お祝い会(看護師15、准看護師3、理学療法士1、臨床工学技士2、社会福祉士1、診療情報管理士5、2級臨床病理技術士資格血液学1、介護支援専門員1、思春期保険指導士1)
- 6月21日 保土ヶ谷看護専門学校の音楽療法士・松崎かよ子先生他学生2名を招き、『うるおいコンサート』を開催。
- 7月1日 山本晋医師常勤に伴い、大動脈センター開設準備開始

第1に、在院日数の短縮が生む空き病床を100%活用させるだけの特徴ある医療機能、特に救急車、急患を全て受け入れる救急医療体制の確立。

第2に在院日数短縮とリスクマネジメントを両立させるムダ・ムラ・ムリのない診療体制の整備。

第3に診療圏の拡大および広範な患者層を可能とする専門的かつ高度な医療機能の充実。

第4に、医療機能の高度化、診療圏拡大を支える地域の医療機関、住民との連携・コミュニケーション活動。

この四つのうち、いずれが欠けても石心会の未来はありません。従って、この四つを今後の石心会の急性期医療をめぐる経営方針の基本として行きたいと考えます。

【学問のすすめ】第46回日本糖尿病学会年次学術集会(富山)

川崎幸病院、川崎幸クリニックから4演題発表

川崎幸病院内科部長

沢 丞

演題発表、二つの目的

まさに風薫るという言葉がふさわしい5月22日～24日、富山県にて第46回日本糖尿病学会年次学術集会が開かれました。会長は私の恩師である富山医科薬科大学医学部第一内科教授・小林正先生、事務局は私の出身講座(第一内科)が担当しました。今までも私自身は、この年次学術集会や関東甲信越地方会に定期的に演題を発表してきましたが、今回は川崎幸病院・クリニックの同僚たちにも是非発表して欲しい、との思いがありました。これには大きく二つの目的があり、どちらもほぼ達成できたようです。

第1は、糖尿病に対する認識の深化。今日、糖尿病は生活習慣病の代表的疾病であり、中高年では10人に1人が患っている可能性が高い。そして神経・眼・腎という三大合併症のみならず、脳梗塞や心筋梗塞などの動脈硬化病変の重要なリスク要因となっています。

従って、糖尿病については日常臨床の際、常に意識して診療にあたる必要があります。脳梗塞、心筋梗塞など超急性期疾患の救急診療に取り組む川崎幸病院・クリニックとしても糖尿病に対する適切な管理が常に望まれます。また糖尿病の発症、進展予防である血糖管理は、生活習慣病の名が示す通り、個人の生活形態に深く介入しなくては達成できません。それ故、医師による薬物療法のみでは糖尿病診療は成立せず、看護師、管理栄養士、理学療法士、薬剤師などと連携したチーム



医療が不可欠です。また患者心理への配慮、臨床心理士の存在も大切です。

従来の糖尿病学会では医師及び医学者に特化した研究発表が主体でした。しかし、今日の糖尿病診療は糖尿病療養指導士制度の導入も含め、総合医療へ変貌を遂げつつあり、それにふさわしい新たな研究体制も求められています。この過渡期にこそ、コ・メディカルの同僚たちに糖尿病医療に関する発表を体験して欲しかったのです。

第2は、富山を知って欲しいという思いです。私は東京生まれ、横浜育ちですが、大学から医局までおよそ17年間を富山で過ごしました。富山はいわば第二の故郷です。都会に比べて片田舎の富山は人々の動きがのんびりしており、空気や水、魚などが美味しいところでした。少しでもそんな富山の良さを知って貰えたらと考えていました。



箕輪章代 理学療法士

反響大きかった4本の演題

さて、私たちが発表した4本の演題は以下の流れで発表されました。

初日、クリニック心理相談室・永末貴子臨床心理士による『ACCU-CHEK Interviewを用いた糖尿病患者への心理的アプローチの試み』の口頭発表。これは糖尿病患者の心理・行動面での問題に迫る新開発コンピュータソフトを用いて、従来の心理テストとの相関を切り口とした分析を行なったもの。反響は大きく翌日の同じソフトを使ったイブニングセミナーでも、この発表が話題になったほどでした。

第2日、クリニック・リハ室の箕輪章代PTによる『当院における教育入院での運動療法指導による、個別性に合わせたライフスタイルへの介入の試みについて』(ポスター発表)。糖尿病患者を運動習慣の程度から4群に分けて運動療法指導の効果を分析する試み。皆が同一的な問題意識を持ちながら、解決のための道筋を構築したことが評価されました。同日には、沢が『短期強化インスリン療法における超速効型(インスリンアスパルト)の有用性に関する検討』を発表、入院患者の血糖コントロールにおけるインスリン製剤の比較を行いました。

最終日、病院栄養科の久米直子管理栄養士による『糖尿病患者に対して食事

記録法によって食行動の変容を促す栄養相談の有用性の検討』。これは糖尿病患者の群別解析を行なうことで栄養相談の標準的な方法論を確立しようとする意欲作でした。今回参加した同僚たちは、糖尿病学会では初めての発表でしたが、いずれも堂々たるもので、会場からの質問にも的確に応答、内容も他を凌駕しておりました。

このような学会発表は、日頃の臨床現場で抱いた問題意識を整理統合して対策を導出し、その効果を判定するためのものであり、医療の現場で日常的に行なわれている所作の具現化に他なりません。今回の発表の成果を臨床現場にフィードバックし、更により良い医療を目指したいと思います。



永末貴子 臨床心理士



久米直子 管理栄養士

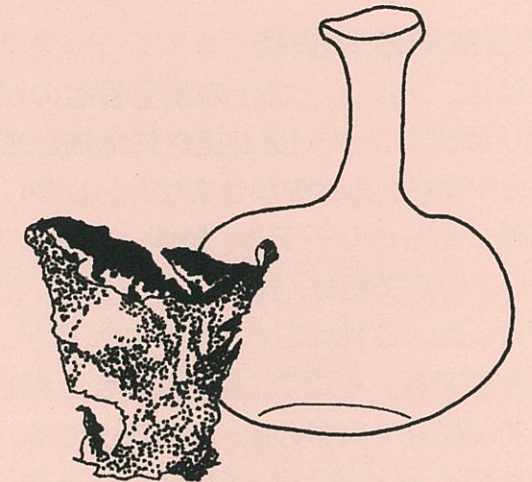
《趣味探訪》

貧乏人の骨董遊びは「見立て」に限る

本部 地域医療連携室長 白木克典

●きつかけ

私は九州の草深き山里、小鹿田や小石原の傍で生まれました。そのせいもあってか、子供の頃から焼物に親しみ、長ずるに従って、小林秀雄や青山二郎、柳宗悦等の著作をきっかけにダンダンと骨董に心惹かれるようになって行ったようです。しかし、骨董趣味にかかる金は範疇です。それなりの目が備わるようになればなるほど、惚れたモノにはとても手が出なく、フラストレーションは募るばかり……。そんなある日、フラッと立ち寄った西荻窪の器屋『魯山』で、貧乏人には格好のモノ遊びに出会いました。それが錆びたトタン板やぶち割れた黄瀬戸もどきの片口を遣って野草を活けたりする『見立て』遊びでした。



●代表的失敗

見立て遊びには、ひたすら自分の美意識(つまりは思いこみ)が、相手の気分をどれだけ巻き込むか、といったところがあるため、時にとんでもない失敗を犯します。遊びを始めた初期の頃のことです。近所の廃屋で拾った、如何にも昭和30年代の色が沁み込んだトタンのバケツ。黒い地膚に赤錆がつき、あちこち穴が開いており、歪みも結構激しい。一目見たとたん惚れ込んで「花生けだ!」。で、見立ての師匠にオズオズ見せると即OK。勇躍、自宅に持ち帰り、桔梗や木瓜の実枝などを投げ入れて一人悦に入っていました。

その年の秋のこと、田舎の小学校・中学校で一緒だった友人が上京、十年ぶりの再会です。私は酒盛の相伴にくだんのバケツを引っ張り出し、南天と薄を投げ入れ、その友人に自慢するつもりでおりました。しかし、自分から口を切るのも野暮だし……そうこうするうち、宴は進み、一升瓶が二本(確か?)倒れるほどの頃合、ようよう私の自慢が始まりました。「あの花活け、なかなか渋いやろ?」(内心、へ〜ッという賛嘆の声を期待しつつも、本人はさりげなく振る舞っているつもり……しかし実のところはどんなだったかは不明)

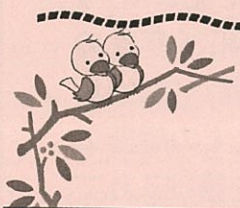
友人、酔眼を凝らしながら一言。「何じゃバケツか。そう言えばガッコの便所の裏に、南天がよ〜け生えとったのオ」

私はドッと冷水を浴びせられた気分。小学生の頃、僕らはボタン便所(非水洗)

の掃除が大嫌い。しかし、無情にも2週に一遍、当番はまわってきます。当時の教員のゲンコツは野蛮でしたので、逃げるに逃げられず(サダムや首領様の恐怖ってきつとこんなだろうナ)……そして、そこには醤油色の雑巾とデッキブラシ、ゴム鼻緒の下駄なんかと共にトタンのバケツと赤い実をつける南天が必ずありました。(この場合、骨董というよりは赤瀬川原平のトマソン考現学に近いものがありますが、「見立て」に伴う危険は、以上のようにほんの少し「観る」や「想う」の軸をずらすと、世界がガラガラと逆転しちまうところにあります)

●ささやかな成功

私は、ブルゴーニュの赤を呑むのが好きですが、あの不合理なまでに華やかな薫りはデカンタージュ抜きには決して開かない。したがってブルゴーニュ呑みにデカンタボトルは欠かせません。しかし、デカンタボトルは新物も骨董も値が張ります。器械づくりのリーデル、機能一点張りでアイソもコソもないような代物でも3万円近い。そこで私は、発掘物でそこかしこが欠けた大振りの黄瀬戸もどき片口を遣っていました。これはこれでなかなか渋かったのですが、長く遣っていると、どうしても飽きが来る。そこで、何かないかと探し始め、そんなに日を置かず見つかりました。さすが見立て業師の店・西萩魯山です。気泡が入り、歪みもありますが、デカンタに遣ってくれと言わんばかりのフラスコ状透明硝子瓶。お値段は、聞いて驚くな、たったの2千5百円。リーデルの十分の一以下です。大正期のものらしく、曇り具合に風情もあるし、デカンタにはピットンコ……もう5年以上遣い続けています。このように、見立て遊びには、「用の美」ならぬ「用の得」もあり、私の見立て病はますます膏肓に入りつつあるようです。



さやま総合クリニック

ヘルシーコンサート

■各回とも満員、大好評でした

- ・4/12 「フランスで活躍した作曲家」
- ・4/19 「名ピアニストの音楽」
- ・4/26 「春を彩る名曲選」
- ・5/10 「フランスで活躍した作曲家2」
- ・5/17 「名ピアニストの音楽2」
- ・5/24 「春を彩る名曲選2」
- ・6/14 特別コンサート〈スタンウェイナイト〉「暮れ彩」
- ・6/21 「名ピアニストの音楽3」
- ・6/28 「春を彩る名曲選3」
- ・7/12 「フランスで活躍した作曲家3」
- ・7/19 「名ピアニストの音楽4」

■今後の予定

- 第11回 7月26日 「歌は心のビタミンⅠ」
磯部百子(歌) 阿蘇博子(ピアノ)
- 第12回 8月9日 (題未定)
五十嵐君(ピアノ)
- 第13回 8月16日 (題未定)
鈴木まりえ(ピアノ)
- 第14回 8月23日 (題未定)
山田明里(ピアノ)

※各回とも、さやま総合クリニック3Fロビーにて午後2時より

★トピックス②

【狭山病院】

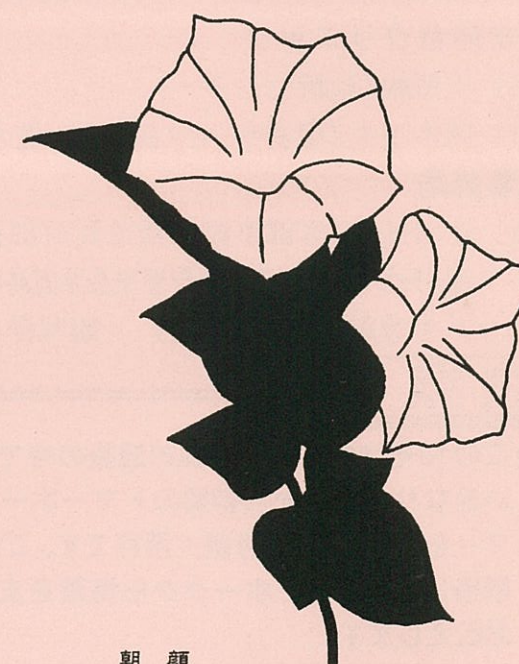
- 5月18日 新入職員歓迎バーベキュー開催、211名参加。
- 5月24日 看護部ケーススタディ開催、98名参加。
- 6月6日 新西棟地鎮祭、16日より工事開始。
- 6月10日 新手術室完成・使用開始。3室から5室体制に
- 6月29日 石心会放射線学術大会開催、8施設より70名参加。
- 7月1日 急性期入院加算等の届け出完了、7月から算定可能に。
- 7月15日 新入職員向けクリティカルパス勉強会開催、90名参加。

【さやま総合クリニック】

- 4月より新規診療科が続々スタート(4/1歯科、5/6眼科、7/1耳鼻咽喉科)
- 見学ラッシュが続いています(5/6淵野辺病院、6/10防衛医大、6/18キッコーマン総合病院、6/19入間川中学校、7/1黒岩議員、7/4所沢ロイヤル病院)
- 外来講座も始まりました〈教室〉
 - ①外来糖尿病教室(1講座4回 糖尿病とは/合併症と日常の注意点・足の手入れ:フットケアについて/薬物療法/食事療法)
 - ②外来栄養教室(6/26サプリメントを上手に取ろう!、7/24甘さ控えめ手作りおやつに挑戦!)

【特養オリーブ】

- 4月15日 この日より、移動図書館「さみどり号」がオリーブに巡回開始。以降10日に1回のペースで訪れてもらっている。
- 4月30日 アンサンブル12名による大正琴演奏会。
- 5月10日 稲荷山公園にて市社協主催ふれあい広場へ参加、高齢者疑似体験コーナーを出店。
- 6月15日 父の日にボランティアによる蕎麦打ちが行われ、入居者の方も飛び入りで蕎麦打ちを楽しんだ。



朝顔